

「新輸血検査の実際」 正誤表

- 2 ページ 上から 5 行目 誤：対応する血液型抗原が
⇒ 正：量的効果のある血液型抗原では
- 4 ページ 表 2, Kidd, 抗 Jk^b の日本人適合率(%)の欄 誤：32 ⇒ 正：23
- 9 ページ 表 6 誤：A 転移酵素 ⇒ 正：B 転移酵素
- 15 ページ 表 10, 遺伝子型の 1 行目 誤：MN/MS ⇒ 正：MS/MS
- 26 ページ 上から 4 行目 誤：manual ⇒ 正：procedure
- 29 ページ 図 1
誤：900～1,000G(3,400rpm)15 秒遠心または 100～125G(1,100 r p m) 60 秒遠心
⇒ 正：900～1,000G(3,400rpm)15 秒遠心または 100～125G(1,000 r p m) 60 秒遠心
- 31 ページ 表 2 誤：ウラ検査で A 血球 ⇒ 正：A₁ 赤血球
- 34 ページ 図 4
誤：900～1,000G(3,400rpm)15 秒遠心または 100～125G(1,100 r p m) 60 秒遠心
⇒ 正：900～1,000G(3,400rpm)15 秒遠心または 100～125G(1,000 r p m) 60 秒遠心
- 38 ページ 図 誤：生理食塩液－ ⇒ 正：生理食塩液-IAT
- 143 ページ 図 1 遠心条件は全て ⇒ 900～1,000G(3,400rpm)
- 149 ページ 上から 5 行目 誤：CTL (略語を正す)
⇒ 正：細胞障害性 T 細胞 cytotoxic T lymphocyte (CTL)療法
- 171 ページ 上から 13 行目 誤：消去法 (p.XX 参照)
⇒ 正：消去法 (p.49 参照)
- 171 ページ 上から 14 行目 誤：フィッシャー確率計算法 (p.XX 参照)
⇒ 正：フィッシャー確率計算法 (p.53 参照)
- 172 ページ 下から 9 行目 誤：消去法 (p.XX 参照)
⇒ 正：消去法 (p.49 参照)
- 172 ページ 下から 3 行目 誤：DT 解離法 (p.XX 参照)
⇒ 正：DT 解離法 (p.138 参照)
- 174 ページ 上から 11 行目 誤：消去法 (p.XX 参照)
⇒ 正：消去法 (p.49 参照)
- 174 ページ 上から 15 行目 誤：吸着および解離試験 (p.XX 参照)
⇒ 正：吸着および解離試験 (p.48 参照)
- 175 ページ 上から 11 行目 誤：消去法 (p.XX 参照)
⇒ 正：消去法 (p.49 参照)
- 175 ページ 下から 2 行目 誤：パネル赤血球 (p.XX 参照)
⇒ 正：パネル赤血球 (p.44 参照)
- 177 ページ 上から 11 行目 誤：消去法 (p.XX 参照)
⇒ 正：消去法 (p.49 参照)
- 177 ページ 上から 11 行目 誤：抗 Fy^b ~~≠~~, 抗 N と抗 S
⇒ 正：抗 Fy^b, 抗 N と抗 S
- 181 ページ 下から 7 行目 誤：ZZAP 溶液 (p.XX 参照)
⇒ 正：ZZAP 溶液 (p.142 参照)

- 183 ページ 下から 3 行目 誤：グリシン塩酸／EDTA 解離法 (p.XX 参照)
⇒ 正：グリシン塩酸／EDTA 解離法 (p.137 参照)
- 183 ページ 下から 3 行目 誤：PEG 吸着法 (I-第4章-4-2 参照)
⇒ 正：PEG 吸着法 (p.143 参照)
- 184 ページ 上から 16 行目 誤：グリシン塩酸／EDTA 解離法 (p.XX 参照)
⇒ 正：グリシン塩酸／EDTA 解離法 (p.137 参照)
- 7 ページ 表 2 で、 誤：オモテ試験，ウラ試験 ⇒ 正：オモテ検査，ウラ検査
誤：A 血球，B 血球 ⇒ 正：A₁赤血球，B 赤血球

ウラ試験のA血球、B血球の判定が逆

ABO 型		オモテ検査		赤血球の抗原	ウラ検査		血清中の抗体
表現型	遺伝子型	抗 A	抗 B		A ₁ 赤血球	B 赤血球	
A	AA, AO	+	—	A	—	+	抗 B
O	OO	—	—	なし	+	+	抗 A, 抗 B, 抗 AB
B	BB, BO	—	+	B	+	—	抗 A
AB	AB	+	+	A, B	—	—	なし

(正)

- 41 ページ 図で、患者血清（血漿）と酵素処理したスクリーニング用赤血球試薬とが逆

(正)

本試験

